左近山中だより

令和8年9月 30 日
横浜市立左近山中学校
校長　下田 牧子
No.5

支える人の力

校長　下田　牧子

９月１日は防災の日です。この時期になると、自然災害への備えや地域とのつながりについて改めて考える機会が増えます。

今年の夏は、大雨の影響で地域のお祭りやイベントが中止になったり、規模を縮小して開催されたりすることがありました。楽しみにしていた子どもたちも多かったことでしょう。また、開催に向けて準備を進めてこられた地域の皆様にとっても、本当に残念なことだったと思います。

しかし、こうした出来事を通して改めて感じたことがあります。それは、一つの行事が実施されるまでには、多くの人の支えがあるということです。会場の準備をする人、安全を見守る人、出演者を支える人、運営を担う人。私たちが当たり前のように楽しんでいる行事の裏には、多くの方々の思いや努力があります。たとえ中止になったとしても、「地域を盛り上げたい」「子どもたちに楽しんでもらいたい」という願いに変わりはありません。そのような支えがあってこそ、地域の行事は成り立っているのだと改めて感じました。

学校では今、文化祭に向けた取り組みが本格化しています。先日、文化祭のしおりに掲載する「校長のことば」の依頼に、一人の一年生が校長室を訪ねてきました。文化祭スローガンである「華夢者楽（がむしゃら）」にはどのような意味が込められているのか、自分の言葉で一生懸命に説明してくれる姿を見て、とてもうれしくなりました。文化祭をよりよいものにしたいという思いが、その姿からまっすぐに伝わってきたからです。

文化祭は、当日の発表や合唱だけで創られるものではありません。文化祭実行委員をはじめ、指揮者、伴奏者、パートリーダー、各係の生徒たちが、それぞれの役割を果たそうと努力しています。そして、その活動を支える仲間や先生たちがいます。一人ひとりの思いと努力が重なり合って、文化祭という大きな行事が形づくられていきます。

地域の行事も、学校の文化祭も、誰かの思いや支えがあってこそ成り立っています。そして生徒たちもまた、ご家庭や地域に見守られながら、日々成長しています。

これから迎える文化祭では、そのような支えへの感謝を胸に、生徒たちが自分らしく力を発揮してくれることを願っています。そして、その成長する姿を、皆様とともに温かく見守っていければと思います。

席書大会

８月 17 日（月）希望が丘中学校にて席書大会が行われました。１時間という限られた時間の中で課題を書き上げ、その後、横浜市内で審査が行われます。左近山中学校からは、毛筆の部５名、硬筆の部２名の参加となりました。参加者全員、集中して課題に取り組む姿が見られました。

横浜子ども会議　中学校ブロック

７月 16 日（木）、左近山中学校にて「横浜子ども会議　中学校ブロック」が開催されました。本校生徒会本部役員６名と左近山小学校の代表生徒６名の合計 12 名の児童生徒と、今年度は地域の方々にも話し合いに参加していただき、昨年度のテーマである「つながる、広げる、いじめの未然防止の輪」に引き続き、今年度も同様のテーマで話し合いを行いました。いじめとは何か、いじめに関わっている人はどのような思いを抱いているか、について参加者の考えを共有しました。それを基に、いじめをする人を減らすために一人ひとりができることは何か、一人ひとりが意識して取り組むために学校では何ができるか、について話し合いました。中学生がリーダーシップを発揮し、話しやすい雰囲気をつくりあげ、活発な話し合いになりました。そして、話し合いを通して、いじめはなくしていかなければならない、と感じた児童生徒が多いようでした。中学校ブロック会議で協議したことを、各学校で実践してよりよい学校をつくってほしいと思います。また、８月下旬には、旭区の小・中学校が集まり、テーマに沿った話し合いを行う「横浜子ども会議　旭区交流会」が開催されました。詳細は次号でお知らせいたします。

保健指導

７月 17 日（金）に、全学年で保健指導を行いました。１年生は飲酒防止、２年生は喫煙防止、３年生は薬物乱用防止をテーマに、各クラスで授業を行いました。

３年生の薬物乱用防止の授業では、毎年、旭ライオンズクラブの方にもご協力をいただいています。生徒たちは、薬物の恐ろしさや、未成年のうちから喫煙することで起こる健康被害を理解し、万が一、喫煙や薬物乱用に誘われてしまった時の断り方を考えることができました。